



東京ミッション研究所ニュース

第 85 号
2017 年 12 月 発行

〒189-8512 東京都東村山市廻田町 1-30-1 東京聖書学院内
TEL/FAX 042-396-5597 郵便振替 00150-5-29091



「TMRI30 年に向け、更に一步前へ」

水間 照弥 東京聖書学院名誉教授
日本ホーリネス教団新井教会牧師
東京ミッション研究所理事長

ロバート・リー博士によってスタートした東京ミッション研究所 (TMRI) は、来年で 30 年を迎えようとしております。リー博士が目指したものを、A・リンカーンの言葉をもじって言うならば、「日本の、日本人による、日本人のための」宣教について研究する、となるかと思えます。

私は、この趣旨に賛同して最初から参与させて頂いています。日本人の伝道方法は、欧米からの輸入によるものであってはならず、日本人によるものであるべきであるとの内村鑑三の考えに共鳴し、リー博士と重なったからです。日本人の根をなしている自然についての概念、そこから派生している古神道や、日本的仏教などの宗教の影響により形成されている日本人の深層、それから派生する思考方法は、日本で生まれ、育まれないとなかなか理解できないものですが、リー博士は深い洞察をもって論文を書かれていたことは、驚きでした。

私は、内村鑑三が「自然は天然なり」と言った事に膝を打って納得した事がありま

した。日本語の語感をもってきて言いえたことでしょう。今日の日本では、「忖度」と言葉が流行りですが、この言葉が意味するところを諸外国では訳すのに適当な言葉がないようです。日本人なら、この曖昧模糊としている言葉も体感できます。言葉にならない感覚にまで踏み込んでいくことが文化脈化には求められます。日本人の、日本人による、日本人のための研鑽を経て、さらにそれをも超える可能性です。

TMRI はこの事を踏まえて立ち上げられ、30 年を経てきました。最初に目指したものにどこまで到達したのかと問われると、セミナーによる研究発表、出版物の立て続けの発行等々をみれば、道半ばとはいえ、まだまだこれからでありましょう。

先日、理事会が開かれ、設立 30 周年に向けて TMRI の実績と、これから目指すべきものについて語り合われました。日本宣教会が立ち上げられましたが、これからは、その中核をなす日本人の世界的宣教学者の養成が問われます。加えて、この事を積極的に推進してゆくための運営資金の確保です。更に、前進してゆこうとする TMRI にあなたもご参加下さい！

2017年6月26日～28日 夏季学校

「ダビデ王の驚くべき選び ～現代に響く旧約聖書の問いかけ～」

講師：ランドル・ショート師

セッション1

ダビデの選びにおける問題点

大学院の博士課程の学びの中で、ダビデの研究をしていて大変驚いたことがあった。それは今まで学んできたダビデと大学院で一番よく読まれているダビデに関する注解書とがあまりに違うということだった。今回の講座では、初めに歴史批評に基づいて考えられてきたダビデとはどんな人なのか、そして後半では聖書に基づいたダビデについて話そうと思う。

セッションは1-7まで7回に渡る予定だが、第1回のまとめとして、2010年に出版した、*The Surprising Election and Confirmation of King David*『ダビデ王の驚くべき選びと承認』（Harvard Theological Studies）の一部をここに紹介する。

預言者サムエルによって油注がれる羊飼いだビデ、巨人ゴリアテと戦う少年ダビデ、琴をもって病めるサウル王を癒すダビデ、このサウル王によって後に命を追われるダ

ビデ。聖書全体から見ても有名なこれらのエピソードは、ダビデがイスラエルの王座に即位する「ダビデの台頭史」(History of David's Rise)の一部として知られている。それではなぜこれらの物語が克明に聖書に記されているのだろうか。

近年において代表的な聖書学者らは「ダビデの台頭史」についてこのように主張する。当時のある人たちはダビデが不法に王位を強奪したと主張したので、その人たちを封じるためにダビデがこの文章を書かせたのである、と。要するに、第一、第二サムエル記における「ダビデの台頭史」は、王位を奪ったダビデを正当化する「ダビデの弁明」(the Apology of David)として解釈すべきだという主張である。本書が出版されるまで、この主張に立つ学者は特に、紀元前13世紀ヒッタイトの王位を篡奪した「ハットウシリ3世」が残した弁明との類似点があると論じ、この聖書物語を古代近東の「ロイヤルアポロジー」(王権を支持する弁明)というジャンルに分類してきた。

しかし、本書は、数々の主張や前提を分析しつつ、聖書物語を正しく理解するためには別のアプローチが必要であると論じている。ロイヤルアポロジーを主張する学者らが議論するほど、「ダビデの台頭史」と「ハットウシリ3世の弁明」との間に類似性はない、と本書では主張している。この物語がダビデの弁明として解釈されるようになった経緯は、聖書物語の背後にある歴史的事実について学者らが様々な前提や結論をテキストに読み込んだ結果ではないだろうか。しかし、この物語が書かれたのは、ダビデ政権の正当性を懐疑的に見る人をなだ

■講師紹介 牧師宣教師の家庭に生まれ育ち、University Alabama, 千葉大学で学んだ後、東京基督神学校、ハーバード大学神学大学院(M.T.S 及び The D. 旧約学)で学ぶ。神学博士。現在東京基督教大学大学院教授。専門分野は、旧約神学、サムエル記。主な著書に *The Surprising Election and Confirmation of King David* (Harvard Theological Studies) 等がある。

めるために、あるいは「反ダビデ派」の告発に答えるためではなくて、自分たちを代表するダビデと同一化している民のためであった。エッサイ、サウル、全イスラエル、そしてヤーウェ自身の「愛する息子」として描写されるダビデのエピソードを記すことによって、聖書はダビデの驚くべき選び (the surprising election) と劇的に展開されていく選びの確認・承認 (the dramatic confirmation) を明らかにしている。

歴史批評家たちは、ダビデの正当性を証明するために聖書物語を書いたのだと言うが、ダビデの台頭史の本当の意味は何なのか。そこで聖書学者たちは、物語の裏にある出来事を調べる必要があると考え、1970年代にはダビデの弁明として読むべきだというようになった。

キリスト者は、確かに弁明として見るが、これは真実な物語として読む。たしかに聖書物語の中には後から付け加えられたもの、後から切り捨てられたものもあるといわれるが、私が様式批評の中で、ダビデ物語はヒッタイトの物語と類似しているかどうかチェックしてみた限りでは、学者の推測ほど、それは類似してはいない。

ダビデの台頭史と聖書のダビデ物語とは同じではない。これは信仰の共同体に与えられたものであると信じて読む必要がある。

第二セッションのための土台作りとして以下のことを見ていこうと思う。ダビデが王となっていく唯一の根拠はここにあった。そして、ヤーウェによるダビデの非仲裁的 (Immediate) 選びと、仲裁的 (Mediate) 選びを検討していくこととしよう。

非仲裁的・非媒介的選び Immediate election

主によるダビデの Immediate election (非仲裁的・非媒介的選び) とは、主の御心のみにおいて確定される選びを指している言葉である。主ご自身が人を選ぶ行為であり、主ご自身の選びの決断といえる。そのことを読者が知ることができるのは、主ご自身が何らかの形で語る言葉 (Iサムエル 16: 1、12) によるか、預言者にそのことが啓示

され、預言者がそのことを語る言葉 (Iサムエル 13: 14、15: 28、28: 17) によるか、ナレーター言葉 (IIサムエル 5: 12) によるのである (Iサムエル 25: 28、IIサムエル 3: 9-10、18、5: 2も参照)。

仲裁的・媒介的選び Mediate election

主の予めの選びが、人間にも分かるような形で表れていること。人の言動や、人間にとって認識可能・知覚可能な出来事を通して、主の選びを mediate 「仲裁する」「媒介する」という意味で「仲裁的選び・媒介的選び」と呼んでいる。

ヤーウェによるダビデ選びのタイミング

主がサウルを退ける箇所としては、第一サムエル 13: 13-14、15: 22-29、35、16: 1などを参照。

主の霊による油注ぎ (Iサムエル 16: 12-13) より以前に、ダビデが主によって選ばれたとサムエル記によって証しされている (Iサムエル 13: 14、15: 28、16: 1)。

「主はサムエルに仰せられた。『いつまであなたはサウルのことで悲しんでいるのか。わたしは彼をイスラエルの王位から退けている。角に油を満たして行け。あなたをベツレヘム人エッサイのところへ遣わす。わたしは彼の息子たちの中に、わたしのために、王を見つけたから。』」

主の霊がダビデの心を調べておられ、ヤーウェよってダビデの選びは既に決められていたことが分かる箇所だといえる。主のヴィジョンは私たちとは異なることを (Iサムエルの各章を通して) 知ることができる。

セッション2

主の目に映る王(の姿)

1. 「わたしはわたしのために王を見た」
(Iサムエル 16: 1)
“I have seen (for) myself a king.”
「なぜなら、わたしは彼の息子たちの中に、

わたしのために、王を見たから。」(ヘブル語直訳)

これは(Ⅰサムエル 16:1で)主がサムエルに「いつまであなたはサウルのことで悲しんでいるのか」と述べている。さらに、「わたしは彼をイスラエルの王位から退けている。角に油を満たして行け。あなたをベツレヘム人エッサイのところへ遣わす。」と伝えている。

2. 「わたしはわたしのために王を見つけた」
“I have found myself a king.”

この聖書の表現では、主がサムエルの後継者を見つけたという意味がこめられている。「わたしは、わたしのしもべダビデを見だし、わたしの聖なる油を彼にそそいだ。」(詩篇 89:20)

「主はご自分の心にかなう人を求め、主はその人をご自分の民の君主に任命しておられる」(Ⅰサムエル 13:14)

3. 「わたしはわたしのために王を選んだ」
“I have chosen myself a king.”

ここではダビデと他の息子たちとの対比、選びがそれとなくなされている。主はたくさん息子の中からダビデの選びをしている。

「わたしは彼を退けている。」「この者もまた、主は選んでおられない。」「この者に油をそそげ。この者がそれだ。」(Ⅰサムエル 16:7、8、9、12)

4. 「わたしはわたしのために王を備えた」
“I have provided myself a king.”

「神ご自身が…羊を備えてくださるのだ」(創世記 22:8)

「神は自分のために羊を見るであろう。」(ヘブル語直訳、Ⅰサムエル 16:1)

「なぜなら、わたしは彼の息子たちの中に、わたしのために、王を見たから。」(ヘブル語直訳)

ダビデが羊飼いであったということは、単に羊を牧するだけではなく、民を牧する準備ともなっていたといえる。またダビデは王としての務めを果たすために備えられ

たともいえる。主は既に自分の民のために良い羊飼いを備えようとされたのである。

セッション7

イスラエル=自らをダビデと重ね合わせる民

1. ダビデの苦しみの記憶

詩篇 132:1「ダビデのために、彼のすべての苦しみを思い出してください。」

Compassionate (同情的な、憐れみ深い)は、共に苦しんでほしいという願いが込められている言葉である。

ダビデはどのように苦しんだのだろうか。サウルに殺されそうになった時、ダビデはどのように苦しんだのか。ダビデには多くの外敵との限りない戦いという苦労があった。400人程のダビデの部下の中にはどうにもならない程の扱いにくい者がいて、ダビデは苦しんだ。

私たちは、ダビデのほかにヨナタンの苦しみなど、聖書を読むことにより、私たちの回りに居る教会の人々への思いやりが生まれるのではないだろうか。そのような中から、神の思いに至ることができ、また神と共に歩もうとした人の苦しみにもCompassionate(コンパッションエイト)でき、主のお苦しみにも思いが至るのではないだろうか。

ダビデ物語の全体を通していえることは、ダビデは主に愛された人だったということである。その結果、兄弟の中でまず神に選ばれ、あらゆる障害を乗り越えて王の位に着いたのである。「ダビード」とは「愛される者」という意味の言葉である。

2. 歴史的表題によって、サウル王が死ぬまでのダビデの物語(Ⅰサムエル 16-31章)と関連付けられている詩篇

詩篇 18篇 「指揮者のために。主のしもべダビデによる。主が、彼のすべての敵の手、特にサウルの手から彼を救い出された日に、この歌のことばを主に歌った」(Ⅰサムエル 18:2-IIサムエル 20章)

詩篇 59 篇「指揮者のために。『滅ぼすな』の調べに合わせて。ダビデのミクタム。ダビデを殺そうと、サウルが人々を遣わし、彼らとその家の見張りをしたときに」(Iサムエル 19: 11)

詩篇 34 篇「ダビデによる。彼がアヒメレクの前で気が違ったかのようにふるまい、彼に追われて去ったとき」(Iサムエル 21: 10-15)

詩篇 56 篇「指揮者のために。『遠くの人、もの言わぬ鳩』の調べに合わせて。ダビデのミクタム。ペリシテ人が、ガテでダビデを捕えたときに」(Iサムエル 21: 10、11)

詩篇 57 篇「指揮者のために。『滅ぼすな。』の調べに合わせて。ダビデのミクタム。ダ

ビデがサウルからのがれて洞窟にいたときに」

詩篇 142 篇「ダビデのマスキール。彼が洞窟にいたときに。」(Iサムエル 22: 1)

詩篇 52 篇「指揮者のために。ダビデのマスキール。エドム人ドエグがサウルのもとに来て彼に告げて『ダビデがアヒメレクの家に来た。』と言ったときに」(Iサムエル 22: 9、10)

詩篇 63 篇「ダビデの賛歌。彼がユダの荒野にいたときに」(第一サムエル 23: 14)

詩篇 54 篇「指揮者のために。弦楽器に合わせて。ダビデのマスキール。ジフの人たちが来て、『ダビデはわれらの所に隠れているではないか。』とサウルに言ったとき」(Iサムエル 23: 19)

◇◇◇◇◇◇◇ 東京ミッション研究所からの書籍案内 ◇◇◇◇◇◇◇

- 1 『天皇制の検証—日本宣教における不可避な課題』 ロバート・リー編 新教出版社 1700→1400 円
 - 2 『これからの日本の宣教—発想の大転換』 TMRI 編 いのちのことば社 2200→1500 円
 - 3 『宣教のパラダイム転換上・聖書の時代から宗教改革まで』 D. ボッシュ著 7035→6000 円
 - 4 『宣教のパラダイム転換下・啓蒙主義から21世紀に向けて』 D. ボッシュ著 7875→7000 円
TMRI 訳 新教出版社 (上下一括割引 14910→12500 円)
 - 5 『日本と西洋キリスト教—文明の衝突を超えて』 ロバート・リー著 TMRI 訳 2940→2400 円
 - 6 『<聖>をめざす旅』 アラン・クライダー著 棚瀬多喜雄訳 東京ミッション研究所 3150→2500 円
 - 7 『社会を動かす礼拝共同体』 J. H. ヨーダー著 矢口以文・矢口洋生・西岡訳 TMRI 2940→2300 円
 - 8 『愛する者が襲われたら』 J. H. ヨーダー著 棚瀬多喜雄訳 TMRI 2100→1500 円
 - 9 『赦し—新しい人間関係を生み出す』D.アウグスバーガー著 棚瀬多喜雄訳 いのちのことば社 1700 円
 - 10 『イエスの平和を生きる—激動の時代に読む山上の説教』 グレン・スタッセン、デービッド・P・ガッシー著 棚瀬多喜雄訳 いのちのことば社 2100→1700 円
 - 11 『平和の契約—福音の聖書神学的理解』 ウィラード・スワートリー著 東京ミッション研究所訳 いのちのことば社 特別価格 7140→5000 円 (まとめて買うとさらに割引が可能です。)
 - 12 『敵対から共生へ—平和づくりの実践ガイド』ジョン・ポール・レデラック著(水野節子・宮崎誉共訳、解説・片野淳彦、西岡義行)東京ミッション研究所/ヨベル社 1050 円 → 800 円
 - 13 『ジョン・H・ヨーダーの神学—平和をつくり出す小羊の戦い』ヨーダー研究会(中島真実、矢口洋生、藤原淳賀、マーク・ネイション)東京ミッション研究所/新教出版社 1950 円→1700 円
 - 14 『神の宣教—聖書の壮大な物語を読み解く』クリストファー・J・H・ライト著 TMRI 訳 いのちのことば社
 - 15 『イエスの足跡に従う—アナバプテストの伝統』 A.スナイダー著 中川美弥子訳 ↑1~3 巻
矢口以文共訳/東條隆進監修、東京ミッション研究所 2000 円
- ※『ケープタウン決意表明』日本ローザンヌ委員会訳、いのちのことば社 945 円
本書は、日本ローザンヌ委員会からの出版ですが、TMRI でも取り扱っています。

TMRIからのお知らせ

◇夏季学校の報告

・ 去る6月26日～28日に「ダビデ王の驚くべき選び～現代に響く旧約聖書の問いかけ」と題して夏季学校が開催されました。ランドル・ショート(Randall Short)師によって、旧約のテキストの背後にある様々な課題に目を留めつつ、深く恵みに満ちた学びとなりました。本号では、その一部が紹介されております。さらに学びを深めたい方は、講師がハーバード大学出版から出された *The Surprising Election and Confirmation of King David* (Harvard Theological Studies)を通して学ぶことが可能です。

◇冬季フォーラムのお知らせ

・ 来る2018年2月26日(月)お茶の水クリスチャンセンターにて「イエスの信実への参与～パウロ贖罪論への新たな視座」をテーマに冬季フォーラムが開催されます。講師は、河野克也氏(青山学院大学非常勤講師、日本ホーリネス教団中山キリスト教会牧師/著書:リチャー

ド・ヘイズ『イエス・キリストの信仰』[訳・新教出版社、2015年]、H.J.クラウク『初期キリスト教の宗教的背景』下巻[共訳・日本基督教団出版局、近刊]。レスポンスには 岩上敬人氏(イマヌエル武蔵村山教会牧師、TCU,TBS,OBS講師、TMRI 理事。著書『パウローギリシア・ローマ世界を生きる使徒』[いのちのことば社]他)が立てられています。詳しくは、チラシをご覧ください。今回も、日本ローザンヌ委員会の協賛での開催です。

献金者名

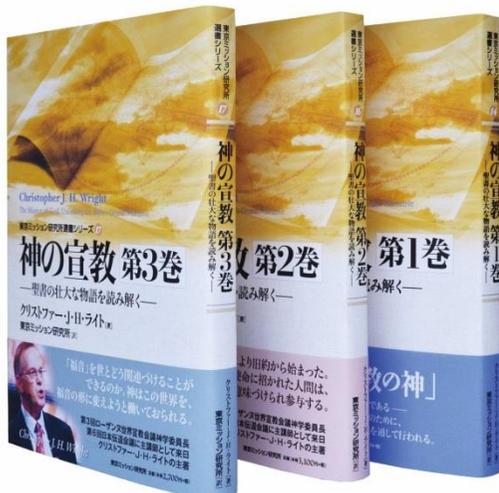
2017年度後期献金者(個人と団体)

2017.4.16～2017.10.1 敬称略

- ◇ 団体：練馬神の教会、新井キリスト教会、上野教会(サフラン会)、川越のぞみ教会、メノナイト教会連合
- ◇ 個人：塩谷惇子、小林重昭、児島康夫、黒川知文、三木勝喜、小関謙治、横坂節子、西岡義行、中川美弥子

※ 貴い献金を心から感謝いたします。

好評発売中



『神の宣教

聖書の壮大な物語を読み解く』

第3回ローザンヌ世界宣教会議神学委員長

第6回日本伝道会議の主講師

クリストファー・J・H・ライトの主著

東京ミッション研究所訳・いのちのことば社
第1巻～第3巻まで全訳完成。

『ケープタウン決意表明』で提唱された「包括的福音」の聖書的・神学的基盤が本書で見事に明らかにされます。

	■ 価格 定価税込	割引	全巻セット
第1巻	3024 円	→ 2600 円	} 9288 円 ↓ 8000 円
第2巻	3348 円	→ 2900 円	
第3巻	2916 円	→ 2500 円	

Mission of God: Unlocking the Bible's Grand Narrative 5冊以上の神学校割引もあります。